

チーム医療における 臨床検査技師の役割と人材育成

小松和典[†] 正木修一¹⁾ 福田 修²⁾
前越 大³⁾ 中村孝男⁴⁾ 有江啓二⁵⁾

第65回国立病院総合医学会
(平成23年10月8日 於岡山)

IRYO Vol. 66 No. 8 (392-396) 2012

要旨

チーム医療における臨床検査技師の役割について、感染対策チーム (Infection Control Team : ICT), 輸血, 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team : NST) の実際例からその現状と課題を論じ、将来的な視点ではチーム医療を実践する人材の育成と確保が重要であると考えられた。チーム医療を実践して質の高い効率的な医療を提供しようとする場合、人材をどのように育成するかが重要な課題であるが、指導を受ける側だけでなく、指導する側の育成も重要なポイントであることを認識しなくてはならない。そのために自己研鑽はもとより、NHO ネットワークの中での研修制度を活用することが望ましい。本シンポジウムは、チーム医療を担う各医療職が医療の質の向上と均てん化を目指して、それぞれの医療職における今後の教育や研修のあり方について考えるきっかけとなったのではないかと考えている。

臨床検査技師は自らの専門性を高める手段の一つとして、各種の認定資格取得へのチャレンジが上げられる。しかしながら、全国のNHO施設には必ずしも認定資格の取得に対する環境が整っていない施設もあり、そのための将来的な対策として、各ブロックに「スキルアップラボ」施設を想定したり、キャリアパス制度を構築して活用するなどの方法が考えられる。チーム医療の実践における人材育成は、医療そのものだけでなく患者にとっても重要な視点である。

キーワード 人材育成, 臨床検査技師, スキルアップラボ, キャリアパス, チーム医療

はじめに

チーム医療は、医療の質的改善と効率的な医療サービスの提供を目的として、専門的な知識や技術

有する複数の医療者同士が対等な立場にあるという認識を持った上で実践される協働的な行為である。そのため、チーム医療を本質的な意味で実践するためには、それぞれの医療職がチーム医療実践のため

NHO 東京病院 臨床検査科 (現所属 NHO 東京医療センター), 1) NHO 山口宇部医療センター 臨床検査科 (現所属 NHO 岡山医療センター), 2) NHO 大阪南医療センター 臨床検査科 (現所属 NHO 京都医療センター), 3) NHO 名古屋医療センター 臨床検査科, 4) NHO 福岡病院 臨床検査科, 5) NHO 四国がんセンター 臨床検査科 †臨床検査技師

(平成24年2月16日受付, 平成24年5月11日受理)

The Role of Clinical Laboratory Technician in the Medical Team and Human Resources Development

Kazunori Komatsu, Syuichi Masaki¹⁾, Osamu Fukuda²⁾, Dai Maekoshi³⁾, Takao Nakamura⁴⁾ and Keiji Arie⁵⁾, NHO Tokyo National Hospital, (current address : NHO Tokyo Medical Center), 1) NHO Yamaguchi Ube Medical Center, (current address : NHO Okayama Medical Center), 2) NHO Osaka Minami Medical Center, (current address : NHO Kyoto Medical Center), 3) NHO Nagoya Medical Center, 4) NHO Fukuoka National Hospital, 5) NHO Shikoku Cancer Center

Key Words: bring up to persons of talent, clinical laboratory technician, medical skill up laboratory, career path, team approach in medical care

に知識や技術の習得方法など、人材育成についてどのように取り組むべきかを考える必要がある。

今回のシンポジウムでは、われわれ臨床検査部門がチーム医療としてすでに実践している、感染対策チーム (Infection Control Team : ICT)、輸血、栄養サポートチーム (Nutrition Support Team : NST) の業務を取り上げ、これらの業務の現状を整理する中から、求められている役割を見極め、必要な知識や技術の習得手段をどのように構築するかを議論した。効果的なチーム医療の実践においては、人材育成の視点が重要な論点である。

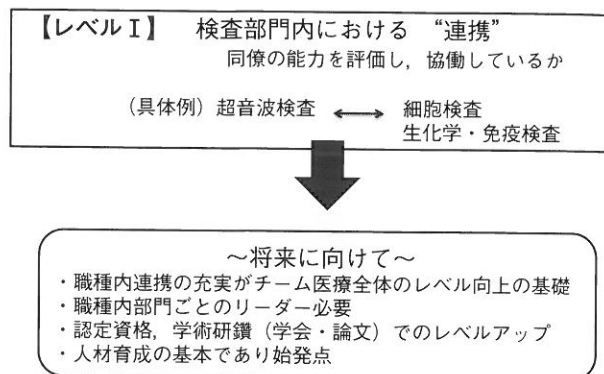


図1 レベルI 検査部門内の連携

チーム医療における臨床検査技師の役割

事前のシンポジウムにおいて、現状の課題を整理する中から求められる役割をまとめ、それに向けた人材の育成について議論をした。

ICTについて

- ・薬剤師と連携して感染臓器別抗生剤の選択やPK/PD理論に基づく治療薬の提案を行う。
PK/PD理論とは、薬物の作用を薬物動態学 (Pharmacokinetics : PK) と薬力学 (Pharmacodynamics : PD) の両面から解析し、抗菌薬のより有効かつ安全な投与方法を考えることである。
- ・抗生剤使用量と薬剤耐性傾向について、薬剤師と連携してNHOネットワークを活用した情報の収集と提供を行っていく。
- ・微生物検査の結果報告までの検査スケジュールの可視化を試み、検査の進捗状況をチーム内で情報共有する。

輸血について

- ・輸血関連検査や適応製剤に関するコンサルテーションを適宜行う。
- ・輸血前後の感染症検査や救済制度に関する情報を患者へ説明する。
- ・輸血認定検査技師と看護師、薬剤師との連携のあり方を考える (お互いの立場と領域を明確にすることで、より高度な連携へと発展することが可能と考える)。

NSTについて

- ・NSTアセスメントデータの解析から低栄養状態や褥瘡状態の予測をするデータの提供の可能性を

探る。

- ・NHOネットワークを活用した認定資格の取得やチームの研修制度の確立が望まれる。

人材の育成について

- ・キャリアパス制度の活用、NHOネットワークの活用による研修制度の確立を図る。
- ・縦 (専門職種としての知識・技術) と横 (チームの一員としての能力開発) の教育の充実を図る。

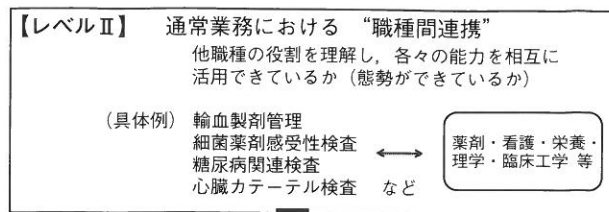
チーム医療における臨床検査技師の役割

事前のシンポジウムの議論を踏まえ、チーム医療の実践場面を4つのカテゴリーに分けて、人材の育成についてそれぞれの現状と将来的な視点で小松が臨床検査部門の立場から提案した。

レベルI 検査部門内の連携 (図1)

具体例としては、検査部門内において超音波検査と細胞検査あるいは生化学検査などとの連携で、同僚の臨床検査に対する能力を評価して部門内で効果的な連携を実践する場合である。チーム医療を実践する上では、最も重要なコアとなる部分で職種内での連携があらゆる職種間連携の基本となる。この充実がチーム医療全体のレベル向上に寄与すると考えられる。

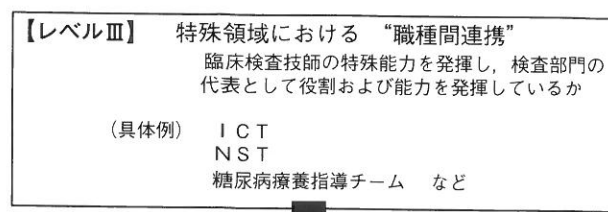
将来的な課題として、検査部門内の連携をスムーズに実践するために、職種内の各部門リーダーによるスタッフ教育が重要で、それらリーダーをいかに育成できるかが、チームスタッフの専門性向上へとつながる人材育成の基本であり始発点となる (図1)。



～将来に向けて～

- ・他職種の理解が重要、そのための研修も早い段階から必要
- ・職種間連携では臨床検査の充実が重要な要素
- ・画像検査領域では「放射線科」と連携できるか！

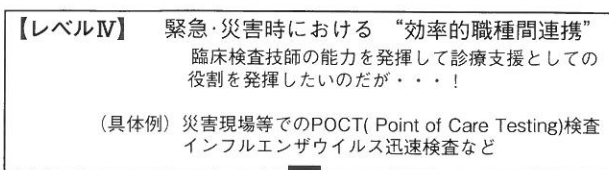
図2 通常業務での職種間連携



～将来に向けて～

- ・チーム医療のアウトカム評価ができる
- ・チーム医療のコアメンバーとして活躍できる
- ・チームメンバーの指導・育成
- ・コアメンバーの育成はNHOが行うことが望ましい！

図3 特殊領域での職種間連携



～将来に向けて～

- ・インフルエンザ迅速検査の検体採取ができないか？
- ・現行法ではできないが、臨床検査技師が担当することで検査の精度が担保できるなどのメリットが多いとされる業務

図4 緊急・災害時の効率的職種間連携

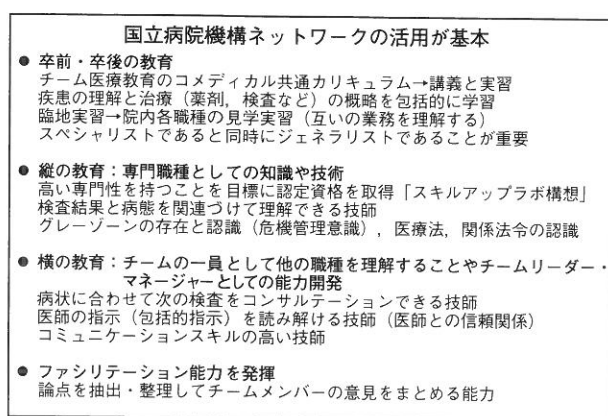


図5 チーム医療実践のための人材育成

レベルⅡ 通常業務での職種間連携（図2）

具体例として、輸血製剤管理や微生物検査、糖尿病関連検査、心臓カテーテル検査などで看護、薬剤、栄養、臨床工学などと連携する場合で、通常業務を行う上で実践しているチーム医療である。それぞれの医療職がお互いの業務内容や役割を理解し合うことが必須であり、相互の能力を活用できているか、あるいはその態勢ができていないかがチーム医療実践効果に影響を与える要因となる。

職種間連携では、臨床検査の充実が重要な要素と考えられるので、そのための取り組みをさらに強化する必要がある。具体的な事例として、今後、画像領域における放射線科との連携について検討することは、効率的な医療サービスの提供の面からもチーム医療のあるべき形の一つであると考えている。

レベルⅢ 特殊領域での職種間連携（図3）

具体例として、ICT、NST、糖尿病療養指導などがあり、臨床検査技師の持つ特殊な専門能力を発揮

して、テーマごとに検査部門の代表としてチームで役割と能力を発揮する場合である。

多くの施設で現在も活発に活動しているが、将来的な視点では、チームのリーダー的立場でチームのアウトカム評価をするなど、コアメンバーとして活躍することを期待している。そのため、チームメンバーの指導や新たなメンバーの育成などについても積極的に取り組むことが求められる。

コアメンバーの教育研修は、NHO ネットワークを活用した研修として行うことで医療の質の均てん化が図られるのではないかと考えている。

レベルⅣ 緊急・災害時の効率的職種間連携（図4）

新型インフルエンザの流行や東日本大震災を経験して、緊急・災害時における効率的な職種間連携をどのように構築するかについて考えておく必要がある。

検査部門では、災害現場等での POCT (Point of Care Testing) (→397p を参照) やインフルエンザ

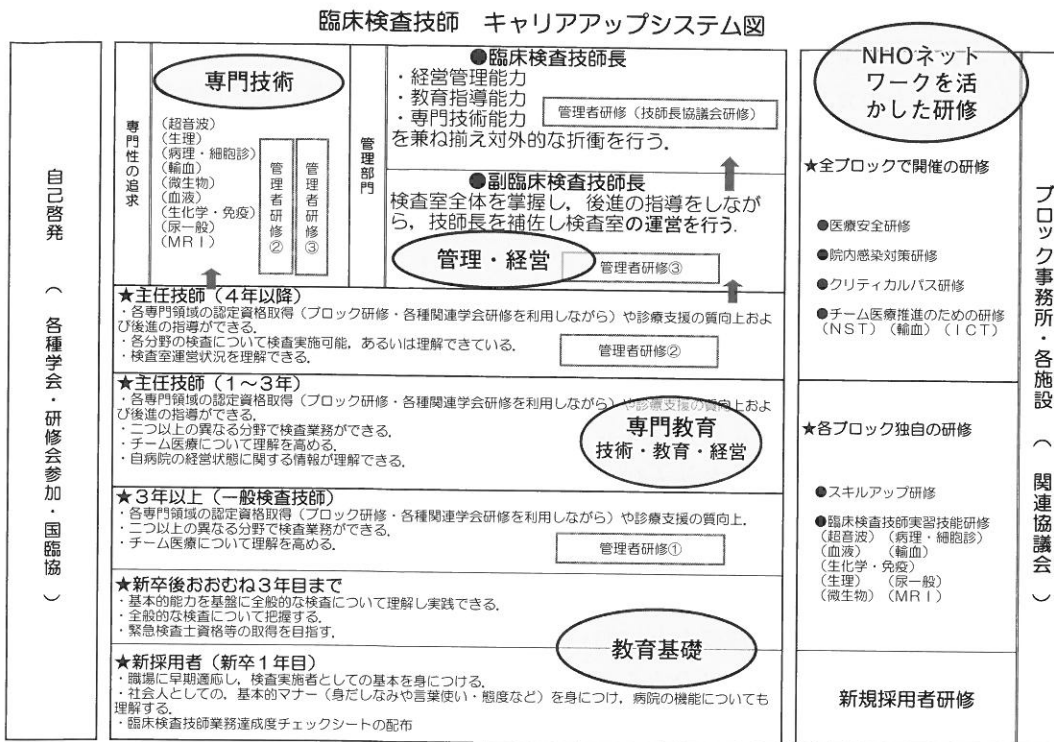


図6 今後の人材育成への道筋 ～近い将来に向けた構想～

ウイルス迅速検査など、臨床検査技師の技術、能力を発揮して診療支援としての役割を発揮したいと考えている。

現行法では認められていないが、インフルエンザ流行時の検体採取など、臨床検査技師が担当することで検査の精度をより担保できることが期待される業務については、今後のさまざまな議論の中で一定の方向性が示される可能性に期待を寄せている。

チーム医療実践のための人材育成

効果的なチーム医療を実践するためには、実践するメンバーの人材育成が重要な課題となるが、人材育成の現況を踏まえてどのように取り組むべきかを検討した（図5）。

1. 卒前・卒後の教育

医療現場の体制そのものがチーム医療主体であることを考えれば、医療職種の養成段階からチーム医療を意識したカリキュラムで教育することは大切なことである。たとえば、チーム医療教育のためのコメディカル共通のカリキュラムや疾患を理解するための講義、臨地実習での他職種の見学など、連携を意識してお互いを理解することが必要である。臨床

検査技師の場合、専門性が重要であることについては異論はないが、同時に臨床検査を全般的に把握することができる、いわゆるジェネラリストであることが、より重要な要件であることを認識しなくてはならない。

2. 縦の教育（専門職種としての知識・技術）

臨床検査技師はチーム医療を実践する上で専門性を発揮できる場面が多い。そのため、日常から、より高い専門技術や知識の習得が必要になる。さらには関係法規を理解してグレーゾーンを的確に認識するなど、危機管理意識の醸成も重要な課題である。こうした専門性習得のための研修は、NHOのネットワークを活用して行うことがよいと考えているが、NHO各施設は診療体制や施設規模など多様で、一様な研修プログラムで対応することは困難である。そのため一つの考え方として、各ブロック単位で指定した施設に「スキルアップラボ」を設置し、一定期間の集中研修という方法が現実的な手法ではないかと考えている。

3. 横の教育（チームの一員としての能力開発）

専門職種として高い専門性を発揮し、チームメンバーとして臨床検査技師の立場から患者の状況を判

断し、次に行うべき検査を適切に提案したりするなど、コミュニケーションスキルの高い検査技師の育成が求められる。チームのカンファレンスなどでは、さまざまな問題の中から論点を抽出し、それらに対する意見を整理してチームの進むべき方向性を示すことができる。ファシリテーション能力の開発も大きな課題の一つである。

今後の人材育成への道筋

人材育成において欠かせないツールの一つとしてキャリアパス（図6）がある。このキャリアパスは、中国四国ブロックで作成したものであるが、全国的にも臨床検査技師のキャリアパス構築への取り組みが始まっている。キャリアパスにおいては、臨床検査技師の専門性や各種の認定資格の取得などにおいて、生涯レベルでの計画ができるようになることが期待できる。それぞれのスキルアップには数年単位の取り組みが必要となるが、その間には検査部門内の配置換えや施設間の人事異動など、人生レベルでの変化もおきることがあり、順調にキャリアを積み上げることが比較的困難なことが多く、志半ばで諦めざるを得ないこともある。そうしたことへの対応の一つとして、共通に使われるキャリアパス制度を構築してスキルを順調に向上させるシステムを考える必要がある。また、せっかく育てた人材がNHO以外へ流出する可能性に対しての対策の一つとして、キャリアパスによる魅力ある職場環境作りも重要ではないかと考えている。

チームを牽引するリーダーの育成も重要な視点であり、教育を受ける側だけでなく、指導する側の教育についても今後の大きな課題の一つである。限りある人的資源を有効に活用して医療へ還元することで、最終的には患者が恩恵を受けることとなる。すなわち、効果的なチーム医療の実践にとっての人材の育成は、医療そのものにとっただけでなく、患者サービスにとってもきわめて重要であり、最も重点的に取り組むべきテーマであるといえる。

結 論

医療の質的改善と効率的な医療サービスの提供を目的として、臨床検査技師の立場でチーム医療に積極的に関わっていくことは、臨床検査技師の医療職としての専門性を発揮してその責任を果たすということでもある。その意味で、チーム医療を実践する人材の育成はきわめて重要な視点である。一般的に受け身の姿勢と捉えられてきた臨床検査技師のこれまでの姿勢から脱却し、自らの思考と意思で行動ができる臨床検査技師を目指すことでチームメンバーの信頼を得ることができる大きな道筋となる。今後求められる臨床検査技師像は、高い専門性を持ちつつも臨床検査すべてに精通するジェネラリストである。すなわち、検査結果を患者の病状と関連づけて考え、次に進めるべき検査について医師をはじめチームメンバーに対しコンサルテーションできる、コミュニケーションスキルの高い検査技師の育成が必要である。こうした専門教育は、NHOネットワークを活用して行うことが最も効果的な方法であり、さらには、各ブロック単位に「スキルアップラボ」施設を想定し、一定期間の教育研修が行える体制作りも必要である。

一方、現行法の中で臨床検査技師には法的な業務制限がないことを「強み」と捉える姿勢も必要である。医療現場で発生する多くの多種多様な業務の中で、臨床検査技師が行うことで今まで以上にスムーズに進められることが多々あるのではないかと考えており、チーム医療実践の一つの形として今後の展開に期待している。

チーム医療を実践する高度の技術と知識を持つ臨床検査技師であっても、最も大切なことは、患者の心に寄り添う気持ちを持ち続けることである。そのためにも疾患や病態をよく理解し、そして、患者の心を知る努力は怠ってはいけない。

〈本論文は第65回国立病院総合医学会 シンポジウム「チーム医療を効果的に実践するための職種連携-権限と責務-」において「チーム医療における臨床検査技師の役割と人材育成」として発表した内容に加筆したものである。〉